

式 辞

いつもの年より格段に早い春の訪れに、命の特別な勢いを感じる今日の佳き日に、ご来賓として、同窓会副会長・佐藤 務（つとむ）様、PTA会長・大塚 和幸（かずゆき）様、山田 志利（やまだ しとし）様、並びに保護者の皆様にも御臨席をいただき、「平成二十八年度、栃木県立真岡高等学校入学式」を挙行できますことは、本校にとりまして大きな慶びとするところでございます。

ただ今入学を許可いたしました、219名の新入生の皆さん、入学おめでとう。教職員一同、皆さんの入学を心から楽しみにしていました。

先ほどは、一人一人の呼名がありました。皆さん一人一人の「はい」という返事に、今まさに勢いを増しながら伸びる新芽の逞しさのような、爽やかで心地よい響きを感じていました。それは、自分の選択と決断によるこれからの高校生活に向かっていく自覚、新しい世界に飛び込んでいこうとする希望や決意が伝わってきたからに他なりません。

この返事は、スポーツに当てはめれば、開会式での選手宣誓。返事に込めた思い、今皆さんの中にある初心を、高校生活の出発点として、自分の力で自分の未来を切り開いていくための知識を大いに吸収し、心の強さや行動力を育て高めてほしいと思います。

ところで、新入生の皆さん。皆さんの中には、今年の桜を特別な思いで味わった人が多いことと思います。節目の桜です。本校に合格した達成感や充実感を持って花を見た人、高校生活への期待に胸を膨らませて花の香りを感じた人、また、新しい世界の入り口に立った心地よい緊張感を持って花の下を楽しんだ人、あるいは一抹の不安を抱えながら散る花びらに接した人、思いもかけず早く咲いた花は、我々に様々な思いを届けてくれました。

この花が咲くのは年に一回だけです。自然の草木は年に一回だけ、種を実らすために花を咲かせます。しかし、我々人間はどうでしょう。私は、人間は何度でも、いろいろな場所で、いろいろな時に、いろいろな種類の花を咲かせることができるのだと思っています。

人間に咲く花は、ほとんどの場合、目には見えません。この花は、自分が生きているという実感、自分は一回しかない自分の人生をしっかりと歩いていると感知することができる瞬間に咲くものです。自分をこの世の中の確かな存在として確認できた時に咲くのです。これまでも皆さんは何度も自分に咲いた花を感じてきたことがあるはずです。そして、この花は自然の草木のように、じっとしていても季節が来れば咲くというものではないことを、皆さんは既に知っているはずです。

この人間が咲かせる花を可能性と呼ぶ人もいます。またある人は、夢とか希望と呼んだりもします。幸せへの願望とも言えます。これからの高校生活を基盤として、皆さんが自分や友人のために沢山の花を咲かせてくれることを期待しています。

そのために今日、皆さんに贈る言葉は「念ずれば花開く」ということです。詩人の坂村真民（さかむら しんみん）さんの言葉です。「念ず」とは、心に強い願いを持つこと。持ち続けることです。「志」と言い換えることもできます。高校生に言うなら、自分はどういう高校生でありたい。さらに、将来はこんな人になりたい、という目標となる願いを心に強く持つことです。

願いは強ければ強いほど、自分の日々の行動に自然と現れてきて、自分が少しずつ変わっていきます。周りの見る目も対応も変わってきます。例え、一日一日の変化は小さくて目に見えなくても、確実に積み重なっていくものが自分の中にできてきます。そしてある時つぼみが生えて、大きな花が咲くことになります。そういう意味を持った言葉です。

真実だろうと思っています。なぜなら、この願望を持つということは、言い換えれば、自分が進む道、進もうとする道をはっきり意識することであって、そこに主体的な行動が生まれます。どうしてもという強い思いは工夫の上手な人間を育てます。そして、何より意志の強い、根性の据わった態度を作ります。逆に、願望を持たなければ日々の活動が受け身になり時間は惰性で過ぎることになりかねません。受け身な態度からは花は咲かないのです。「念ずれば花開く」裏返せば、「念ぜずば花開かず」。

何事かを為さねばならぬ時、できるかできないかを先に考えれば、出てくるのはためらいです。壁を遠くから眺めて、あんな壁は昇れるはずはないと決め込んでしまうことを、私は最も嫌います。大きく高く見える壁であっても、大概是、近づいて見れば昇り口は見つかるものです。

皆さんには、なるべく早く、しっかりした強い願望、つまり志を自分の中に育て、伸び盛りのエネルギーを大いに発揮しながら失敗を恐れず、次から次へと壁を乗り越える人であって欲しいと心から願います。

さて、御列席いただきました保護者の皆様、皆様のお喜びもひとしおと推察申し上げ、改めてお祝いを申し上げます。まことにありがとうございます。

また、この場を借りまして皆様にはお願いもございます。

学校といたしましても、生徒諸君が将来、社会の有為な存在として活躍するための発達、成長を全力で支えてまいります。保護者の皆様におかれましても、お子様の成長とともに支える仲間として、家庭における教育の一層の充実と、これからの本校の教育活動に対する御協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、ご来賓の皆様には御多忙の中、御臨席を賜り、新入生の晴れの門出に花を添えていただきました。新入生共々心から感謝申し上げますと共に、今後とも本校の教育活動に対して、御理解、御支援を賜りますよう、改めてよろしくお願い申し上げます。

終わりに、本校の基本精神である「至誠」の意味に新入生と共に思いを致し、また、新入生諸君の限りない可能性に大きな期待を込めながら、入学式の式辞を閉じます。

平成二十八年四月七日
栃木県立真岡高等学校長 菊地 透